

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	スマイルきむら		
○保護者評価実施期間	R7年 11月 1日		～ R7年 11月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30	(回答者数) 25
○従業者評価実施期間	R7年 11月 1日		～ R7年 11月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 12月 5日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・適切な支援の提供について	・利用児童ひとりひとりのニーズを把握した上で小集団活動を、さらには専門的支援計画書を作成し5人までの小グループでの活動を必要に応じて取り入れています。専門職(児童指導員、言語聴覚士)が個別での支援を行うこともあります。ニーズに合った支援を行い成長の力添えを行っています。	・より綿密なアセスメントとモニタリングを行い、本人や保護者のニーズに合った支援の提供を目指します。 ・言語療法は先生の都合もあり、もっと入れてほしいというお声もいただきます。出来る限りお誘いをさせていただくことと、言語聴覚士からのレクチャーを職員が受け、日常生活での関わりでも意識的に支援を行っていきます。
2	・B型の就労施設も運営しており、交流・体験・就労などがスムーズにできる	・就労継続支援B型事業所の月1度のレクリエーションのタイミングを合わせるなどして、交流の機会を作っています。一緒に調理実習を行ったり、夏祭りなどのイベントを行うことでふれあう事ができる機会を設けています。また、就労を目指す中高生には見学や体験などに繋げる橋渡しをしています。	・昨年度茶話会で保護者の方に見学をしていただいた回が好評でした。より多くの方に就労をイメージしていただく機会作りをしていきたいと考えます。また、就Bの利用者様と児童との交流を図り、普段からより身近な存在として感じてもらえるような工夫をしていきたいです。
3	・相談員が同事業所内に常駐している為、連携をスムーズに図ることができる	・自事業所へ通所されている利用者様に限りませんが、細かなやり取りやモニタリングなど情報共有がスムーズに行えます。保護者のニーズにも多角的に答えたり、支援したりしやすくなっていると考えます。より切れ目のない支援を強みに、引き続き連携を図っていきたくと考えます。	・より迅速な連携と、必要に応じて関係機関へ繋ぐ役割を引き続き担っています。相談員様の目線で多くの情報リソースを持っておられる為、それも十分に活用していけたらと考えます。自事業所だけでなく、他事業所の相談員様との連携も図っていかたくと考えています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・地域交流(学校・地域行事など)	・公園へ遊びに行く、近所の駄菓子屋やスーパーでの買い物体験、長期休みでのお出かけなどはありますが、積極的に地域の児童と関わる機会は少ないです。地域行事として近所の神社での行事等が参加しやすいですが、行われていても閉所日の日曜日が多く、参加が困難です。	・地域の催しについてはこれまで通り参加可能なイベントの情報を収集し、積極的な参加を促して行きます。また、担当者会議で学校へも入らせていただいたり、運動会、オープンスクールなどで職員が児童の様子を見に行く機会があります。子ども同士での交流も検討していきたくと思います。
2	・地域連携(医療・福祉・教育など)	・上記と同様、なかなか直接地域と繋がる行事に参加しにくい点が課題と考えています。特に医療連携は推進していきたくと考えていますが、実際保護者の方や相談員様の要請があつてからの連携となる為、実例がないのが現状です。	・避難訓練や事業所内のイベントを地域住民参加可能とする、避難場所の学校への挨拶・避難訓練を実際に行い入れてもらう等検討中です。ただし、利用児の家庭事情や心情にも配慮する必要がある為慎重な対応をとるようにしています。地域住民の参加については、安全面の対策を検討した上で慎重な検討を行っていきます。
3	・利用児の保護者、家族参加のイベント開催	・夏祭りやクリスマス会など、自由参加型のイベントを開催していますが、当日のご家庭都合や、新規の会場へ入りづらい特性を抱える利用児さんもおられる為全員が満足できる会のあり方が課題です。特にクリスマス会は4事業所合同で200人規模になる為、参加を見送る方もあり工夫の必要があります。 ・茶話会が年に1回程度であること、障がいをもつ兄弟間交流に絞った会等も検討を要すると考えます。	・どのようなニーズがあり、参加が難しいのであればどのような理由からなのかを検討し、開催可能なイベントをその年ごとに工夫していく必要があると考えます ・小中学生の兄弟姉妹となると年齢も上がり、家族の障がい受容、特性理解、抱える想いにも着目しながらサポートできる事はないか検討していく必要があると考えます。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 スマイルきむら

公表日 年月日 令和8年 1月9日

利用児童数

30人

回収数

25

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	23 (92%)	2 (8%)			・広い空間でダンスなども安全に行えるスペースが確保されていると思います。 ・夫操できる広さがあり、しっかり活動させていると思います。	・利用児の年齢、体格によってはスペースが狭く感じられます。怪我のないように約束事(走らない、体を使う遊びは部屋を分ける等)を取り決めています。	
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	23 (92%)	1 (4%)		1 (4%)	・いつも手厚く見ていただいています。 ・体力を使う仕事だと思うので男性の職員さんは必要かな?と思います。	・職員異動があり、男性職員は現在いません。身辺の介助が必要な児童に対しては保護者への説明と承諾を得ながら適切に支援を行っています。	
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	25 (100%)				・ロッカー、活動場所などわかりやすく、スケジュールも視覚的にわかりやすく配慮してくださっていると思います。	・安心してご利用いただけるよう視覚支援を意識して行っています。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	25 (100%)				・いつも清潔だと思います。	・朝と児童帰宅後の清掃をしています。	
適切な 支援の 提供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	23 (92%)	1 (4%)		1 (4%)	・しっかり知って理解してくださって本人に合う支援をしてくださっています。 ・いつも寄り添っていただき親子ともども安心して利用できます。		
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	25 (100%)						
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	25 (100%)						
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	24 (96%)				1 (4%)		
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	25 (100%)						
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	23 (92%)	2 (8%)					
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	5 (20%)	2 (8%)	4 (16%)	14 (56%)	・就労施設の方と交流する機会がありました。	・こどもではありませんが就労施設の方との交流をしています。児童クラブなど外の交流はほとんど機会がありません。今後検討していきたいと思っています。	
保護者 への 説明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	25 (100%)						
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	25 (100%)						
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	23 (92%)				2 (8%)	・茶話会、就労事業所の見学 ・茶話会での情報提供が主ですが、参加できる方も限られます。回数や時期、曜日など検討しながら、より多くの方の参加を目指していきます。	
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	23 (92%)	2 (8%)				・お迎えの時に毎回しっかり報告されています。 ・先生によって簡潔に説明される方と細かくプログラムごとに説明くださる方といらっしゃると思ったので…(どちらともいえない、と回答)	・なるべく職員による差がないように配慮していきます。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	25 (100%)						
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	25 (100%)						
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいの支援がされていますか。	23 (92%)		1 (4%)		1 (4%)	・弟と一緒にイベントに参加させていただき楽しく交流しています。 ・夏祭りやクリスマス会など、きょうだいも参加させていただいてありがたいです。 ・いつも企画運営ありがとうございます。家族で楽しめています。	・今後も家族や兄弟が楽しく参加できる企画を考えていきます。
19 子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	25 (100%)							

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	23 (92%)	1 (4%)	1 (4%)		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	25 (100%)			・SNSはあまり見ていないですが、お便りを子どもと見るのが楽しんでいます。 ・毎回、毎月の行事予定や活動発信をみるのを楽しみにしています。	・楽しみにしていただけで有難いです。事業所の様子を知っていただける配信やお便りを作っていきます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	24 (96%)		1 (4%)		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	25 (100%)				
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	25 (100%)				
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	25 (100%)				
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	24 (96%)		1 (4%)		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	25 (100%)			・児発のころから通っているので、安心して行っています。 ・行き渋ることなく、楽しみにして通わせていただいています。いつもありがとうございます。	・ありがとうございます。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	24 (96%)	1 (4%)		・プログラムで行っているゲームやイベントがとくに楽しい様で、たくさん話してくれるようになりました。	・ありがとうございます。楽しく通える居場所のひとつになれるように努力してまいります。
	29	事業所の支援に満足していますか。	24 (96%)	1 (4%)		・限られた時間の中でたくさんの活動をして下さりいつもありがとうございます。	・ありがとうございます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		スマイルきむら				公表日		令和8年1月9日	
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点		課題や改善すべき点	
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	10		・利用定員に対しての広さ利用児の年齢や体格にもよりますが確保してあると思います。間仕切りを使って部屋を分け人数に合わせて部屋を使う事もできます。	・活動によっては狭いと感じる部分もありますが、活動する人数を分けて絞るなど工夫をします。広さはありませんが死角になる場所も出てくる為、注意して職員配置を行う必要があります。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	10		・支援内容やこどもの年齢層、特性に応じて職員配置を調整しています。	・外出など活動内容によって必要な人員を調整し、増員を頼むこともあります。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	10		・玄関→手洗い→ロッカー→保育室とつながっており、動線がわかりやすい構造になっています。	・身体障害を抱える児童が現在はいませんが、入り口など階段しなくバリアフリーにはまだ環境が整っていない部分もあります。施設の設備を整えていく必要性を感じます。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	10		・こどもの年齢に応じた活動をする際、保育室を仕切り、それぞれで活動できるようにしている。	・元が古い施設を改修していることもあり、備え付けの器具が古くなってきています。清掃は努力していますが、どうしても取り切れない汚れや備みも見られます。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9	1	・保育室の他に個室が設けられており、必要に応じて行うことができます。 ・空いていればこどもの求めに応じて、クールダウンや個別支援に使うことができる部屋があります。				
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	9	1	・日々の業務前後のミーティングと月一の全職員のミーティングが行われています。	・必要な情報共有をしようと思う時間が足りなくなってしまう、取捨選択と必要な事務を短時間でまとめる工夫が必要になります。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	1	・玄関先に意見箱の設置をし、保護者が意見を出しやすい環境を整えています。 ・日々の業務前後のミーティングと月一の全職員のミーティングが行われています。	・意見箱については利用が確認されていないので、さらに普及するよう案内します。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10		・ミーティングでこどもの様子を共有する時間を設けています。 ・日々の業務前後のミーティングと月一の全職員のミーティングが行われています。				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	7	・厳密に言う第三者外部評価の機関ではないが、業者に委託をして同様の取り組みを行っています。	・改善点についてはなるべく迅速に改良できるよう努力しています。			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8	2	・全体ミーティングの際には様々な研修を行っています。また、外部研修に参加した職員が講師となって伝達研修も行っています。	・個人の参加したい研修に何でも行けるわけではなく伺いを立てることとなっています。業務時間外での参加を余儀なくされることもあります。			
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10		・月ごとの活動予定をコードモン（アプリ）などで配信して、前もって予定の把握ができるようにしています。 ・連絡ツールで毎月家庭に公表、希望があればプリントでも配布しています。	・ホームページでの公表については知らない保護者も多い様子なので、周知をしていきます。			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	10		・必ず保護者との対面でのアセスメントを行っています。適切なプロセスでの作成を行っています。	・保護者様が来所が難しい、時間の都合が付きにくい例も増えてきました。伺いを立てた上でご自宅訪問なども行っています。			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10		・計画作成については常勤のみの会議になりますが、パート支援員の方の記録も参考にしながら計画作成を行っています。	・完成した計画をパート支援員の方にも定期的に確認いただきながら共通理解と現在の目標確認をしていきたいと思っています。			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10		・支援の際に利用児のファイルをまとめて確認できるようになっています。				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8	2	・インフォーマルなアセスメントが中心ではありますが、総合的かつ客観的に判断をしながら確認しています。	・フォーマルなアセスメントは直接利用はしていませんが、Vineland、S-M生活能力検査などを参考にしています。			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9	1	・全ての項目を適切に設定して計画の作成を行っています。	・具体的な支援目標だけでなく、やや曖昧な文言も少なくはない為、誰でも一目見てわかる書きぶりを意識しながら作るようにします。			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9	1	・基本的には常勤が利用児のいない時間帯に相談・立案・準備を行っています。チームで役割分担をしながら行っています。	・常勤が主となっていますので、パート支援員の方からも様々な角度からの意見をいただきながら形にしていきたいと思っています。			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10		・子どもの興味や季節行事を取り入れています。 ・制作や調理実習（学校休業日）といった手先を使った活動と全身を使った活動が月々で入るように意識しています。	・年間通すと繰り返しのものもある為、新しい挑戦も取り入れていけたらと思います。			

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	10		・専門的支援にも力を入れるようになっていきます。個別と集団それぞれの良さを活かした計画作成をしています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	10		・必ず打ち合わせを行っています。活動の担当だけでなく支援に必要な児童の確認と担当、時間についても細かく打ち合わせます。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	10		・記録と振り返りを必ず行っています。共通理解、情報共有の時間として大切にしています。	・延長保育が増え、振り返りの時間が短くなってしまいました。短時間で要点を押さえる意識をしていきたいです。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10		・記録を全職員が見られるようにし、支援開始前に共有し、検証・改善につなげています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	10		・主に児発管がモニタリングを行いますが、職員の意見を聞きながら多角的に見直しを行っています。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	10		・行っています。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	10		・こちらから提示や与えるだけでなく、自分で考え選び、最後までやり通す力の育成を意識して支援しています。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	10		・基本的に児発管が出席するようにしています。難しい場合は支援に携わる職員が参加しています。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	4	・教育、保育、福祉などの関係機関と担当者会議などで連携を図っています。	・医療との連携は実例が少ないのですが、必要に応じて連携をとる体制を整えています。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8	2	・学校によっては行事予定表を下せる場合もあります。基本的には保護者を通して情報共有と連携を図っています。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4	6		・就学以前の関係機関との情報共有例はありませんが、必要に応じて対応できる体制を整えています。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	2	8		・直接情報提供するなど繋がりがある例は稀ですが、同系列の就労継続支援B型事業所に就労した利用者様に関しては情報共有を図っています。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	1	9		・スーパーバイズに入っていたと考えていますが、機会に恵まれていないのが現状です。今後の連携を検討していきます。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	9		・児童クラブとの関わりはありません。今後地域の情報を集めながら参加できそうな企画などを検討していきたいと思っています。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3	7	・事業所の代表が参加をしています。	・他の職員は参加していない為、今後の積極的な参加を検討していきたいです。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	10		・共通理解をもち、同じ方向性で全員が支援を行えるように意識しています。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	9	1	・茶話会での先輩ママさんの講演を企画したり、就労や就学に関する情報提供を行ったりしています。	・ペアレントトレーニングは対象が未就学児のプログラムとなっている為現段階では行っていません。参加してみたいとの声もある為、クローバーさんと連携しながら研修などで学びたいと思っています。
関係機関や保護者との連携	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10		・契約時に丁寧に説明を行うようにしています。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10		・保護者の方の意向をもとに支援計画を作成することを基本としています。	・こども自身の意思確認については難しい場合もある為、ほとんどが保護者の方へのヒアリングになっています。どのように意思を尊重、確認するのかが今後も課題としながら意識していきたいです。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	10		・必ず直接の説明を行うようにしています。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10		・相談があれば内容や保護者の希望によって電話、面談、訪問など対応しています。可能な限り迅速に対応するようにしています。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	8	2	・クリスマス会、夏祭りなどで保護者や兄弟が交流する機会を設けています。 ・茶話会で保護者同士の交流ができる機会を設けています。	・障がいをもつ兄弟姉妹がいる特殊な環境に置かれたきょうだい同士の交流という意図をもった会については特別設けていません。必要に応じて開催も検討しています。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10		・対応の体制を整備しています。希望や状況に応じて必要な時間をとりながら対応しています。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	10		・毎月のお便りでプログラムやお知らせを、写真便りで日々の様子を4月に1度配信しています。また、ご利用時には写真をつけた活動報告を配信しています。	・InstagramやHPの活用についてはまだできていない部分があるため、周知とともに適切な利用を目指していきます。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10		・十分留意して扱っています。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10		・視覚支援、見通しをもてるよう予め予定や送迎車を伝えておくなど、必要に応じた支援や配慮を行っています。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	9		・地域の方を事業所に招く体制や安全性について十分議論した上で地域に開かれた事業所作りを行っていきたくと考えます。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9	1	・マニュアルの策定と職員への周知、研修、それにとまった訓練の実施を全体ミーティング等で行っています。 ・不審者対応訓練を年に数回利用児と一緒にを行っています。	・お便りやアプリの配信機能を利用して保護者への周知を行っていきたくと思います。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10		・新しい職員が入職した際、見直しと研修を行っています。また年間計画に組み込みながら定期的な訓練を行っています。	・どのような研修が適切なのかまだ手探りなので、学ぶ機会が欲しいです。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	10		・服薬の変更や発作の情報、てんかんが起こった際のチャート図など職員が見やすい場所に貼り出し（職員のみが見ることができる場所）確認できるようにしています。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	10		・現在重篤な食物アレルギーのある児童がいません。そのような場合、上記と同様に確認と対応ができるよう体制を整えます。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10		・安全計画が作成されたことにより、全員で毎月の点検箇所や研修内容を確認できるようになっています。	・避難経路に使うドアの開閉に時間を要してしまうことがあります。（1カ所）日頃から鍵のかけにくさ、扉の滑りなど安全点検を行い、修理が必要な際には早めに頼むようにします。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携を図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9	1	・安全計画の周知は4月に行っています。計画や支援計画にも避難場所などの記載を行い連携を図っています。	・周知についてはより徹底して行うようにしたいと思います。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	10		・月1のミーティングで他事業所の例も含めて共有し、具体的に振り返り共通認識として持つことで繰り返すことがないように気を付けています。	・事故が起こる前の状況を見逃さず、文章化することで意識できるよう再度声掛けを行っていきます。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	10		・研修機会の確保をしています。	・社内の風通しをよくすることを意識し、誰でも意見が言える場作りを意識していきます。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	10		・全体ミーティングの際に身体拘束研修と身体拘束をやむを得ず行う場合の共通認識を行っています。但し現在身体拘束を必要とする児童が少ない為左記の事例は行っていません。このような状況があれば然るべき対応をし		